

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873600510		
法人名	さくらケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム さくら新宮		
所在地	兵庫県たつの市新宮町鶯崎286-1		
自己評価作成日	平成22年8月15日	評価結果市町村受理日	平成22年10月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2873600510&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々が役割を持って生活して頂けるよう支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所各階入口から見やすい場所に「基本的人権の確立」、「健全育成支援の実現」、「社会的自立の助長」、「地域福祉の育成」の4つの運営基本理念を掲げ、この基本理念を实践するため具体的に「さくら新宮の10ヶ条」をまとめ、毎日の始業ミーティング時に全員で唱和して、理念の实践に取り組んでいる。運営推進会議はほぼ2ヶ月に1回開催され、市町担当者及び地域の方々等の出席があり、市町との連携と地域とのつながりが窺える。事業所は、特に個別ケアの確立及び自立支援を重視したケアサービスの実施に努めている。管理者・職員は利用者本位の暮らしを念頭に、職員が目立たないような支援に努め、事業所が利用者一人ひとりにとって最高に居心地のよい生活拠点となるべく取り組まれている。管理者への職員の信頼は篤く、気安く相談ができる関係にあり、利用者の表情も穏やかで、ゆったりとされている。終末期における看取りの方針を統一して書式化し、入居契約時に同意書を交わすなどして、利用者・ご家族等の安心を深める取り組みも見られる。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を具体化したもの「さくら新宮10ヶ条」を作り毎日ミーティング時唱和している	基本的人権の尊重をもとに、基本理念4項目、職員心得として日々のケアに繋がるわかりやすい言葉にかえた「さくら新宮10ヶ条」を毎日実践できるよう職員一同笑顔で行動されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりには積極的に参加するようになり事業所の行事には家族様や地域の方々にも参加して頂けるよう呼びかけている	地元の自治会に入会し、毎月のお茶会へ出かけて、作品を持ち寄ったり、季節の料理をいただいたりして交流の機会をもたれている。作品づくりの話題にも花が咲き、恒例の集まりになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たつの市地域包括支援センターの認知症サポーター養成講座を地域の方々と一緒に受講しています		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や情報交換を行った上で話し合いを通して率直な意見をもらい、一つ一つ積み上げていくようにしている	運営推進会議には、市の職員をはじめ、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会会長さん等をメンバーとして、近くの公民館を利用して、事業所の様子や利用者の暮らしぶりなどについて話をして意見を伺い、日頃のケアに活かしている。	事業所の行事以外では、定期的な開催が公民館で開催されており、日頃の暮らしぶりをみていただいたりするには、事業所での開催も今後検討してほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議の知らせや相談事は、直接窓口に行き、事業所の実情など話し合いをしている。又2ヶ月に1回、市内のグループホーム管理者が集まり、話し合いの場をもっている。市の担当者の方も同席して下さり、意見交換している	普段から気軽に窓口へ行くようにされており、提出文書や相談はもちろん話しやすい関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防止の徹底。絶対にあってはならない事を職員にも充分伝え理解している	事業所では、身体拘束についてのマニュアルを作成し、職員全員へ周知している。玄関の施錠についても、鍵をかけることの意味を職員は理解しており、安全面を確保し、できるだけ鍵をかけない試みを行なっている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを熟知し、防止に努めるようし、指導工夫しながら実践しています	虐待についてのマニュアルが整備されており、職員は、高齢者虐待防止について、日頃から管理者の話等からもその重要性を理解しており、毎日のケアの中でも注意を怠らないようにしている	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学べる機会を市に提出・依頼。成年後見制度については学習会が整い、推進会議等で実施予定	現在は対象となる利用者はいないが、職員が外部研修等に参加して学習してきたことを、他の職員へも伝える資料が揃えられている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。又重度化した時の対応なども説明し同意を得るようにしている	管理者は、契約に関する説明を行なう場合には、ゆっくりと分かりやすく、途中、何度でも分からないことや言葉についても説明を行い、後日、また改めて署名等をいただくこともある。家族には十分納得していただくように配慮している。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から思いを察する努力をし運営に反映できるように心がけている	ほとんどの利用者の家族が日頃から来訪されており、その機会にはできるだけ話を聞いたり、こちらからは日頃の様子を伝えたりしているが、直接会話以外からの意見要望を聞く機会はない。	利用者の希望や家族の思いや気持ちを聞くための機会の一つとして意見箱や無記名アンケート等、直接言いにくいことも含めて意見を聞く機会をつくり、運営に反映できるように工夫をしてほしい。
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、サービス担当者会議を行い意見や問題点等を話し合ったり又意見交換を行い質の向上に努めている	毎月の会議でも意見交換ができるが、日頃から管理者へいろいろな話がしやすい環境にあり、情報交換、意見交換を含めてサービスの質の向上に向けて管理者はじめ職員は熱意をもって行動されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	昇給制度の実現、福利厚生の充実・シフトの希望の受容など整備に努めています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修、資格取得の教材提供、学習会の提供など積極的に援助しています		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば他の事業所の見学や新規事業所の見学会にも行くようにしている。同業者同士の交流は時々ある		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で必ず本人と会って心身の状態や思いなど、話しをゆっくり聞くよう配慮している		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人の意思や家族様の希望・要望・問題点など細かく聞き入れサービスに結び努力を行っている		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとしてすぐに対応出来ない事が多い為現状を説明し他のサービスの内容説明や地域のケアマネージャーへの相談に繋げられるようにしている		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、会話の中から学ぶことが多い。お互いが協働しながら和やかな生活が出来るよう場面作りや声掛けをしている		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを出来るだけ伝えるようにし協力いただける面はして頂いている		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力や理解を得ながら知人や友人に会う機会があったり交流の場が出来るよう働きかけている	家族だけでなく、以前住んでいた土地の近所の方や兄弟、姉妹、親戚の方など、いろいろな方が自由に気軽に訪問できるよう配慮され、自由におしゃべりできるよう支援されている。また、以前から通っている美容室の利用支援もされている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士と一緒に外出したり、出来る機会を作るようにし、又他の階との交流の場も作るようにしている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	円満な退居により近況報告など知らせて頂いたりお互い現状を大切にしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情からも把握できるように努めている。意思疎通の困難な方には家族や関係者から情報を得ている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、日頃の様子、行動の変化に注意しながら、言葉では表現しづらい利用者の思いをできるだけ汲み取り、希望や要望を理解するように努めている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで培ってきた生活を大切にしながらこれからもその生活を継続できるよう、バックグラウンドに関する情報を大切に全体像を知りながら支援するようにしている		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「できること」を少しでも長く継続し続けられるよう、また生活リズムを理解し、本人の全体像の把握に努めている		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回は介護計画の見直しを行い、家族様に来て頂き説明・今の状況等をお話ししている。又家族様から昔の様子などを聞くなどし、ケアに役立てている。状態の変化や受診状況など随時家族様へ連絡するようにしている	職員は、利用者がその人らしい暮らしができるよう、日頃の体調の変化や生活歴をふまえて、担当者会議やケアカンファレンスを定期的に行い、それらをもとに介護計画を立案しているが、会議への家族等の参加はされていない。	ほとんどの家族の来訪時には日頃の様子を伝えたり話しはされているので、今後は、介護計画を立案する段階での本人の希望や家族の思いなども加えることができるようにされてはどうか。
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別ケース記録があり、毎日の様子やその日の変化を記録として残している。また日中同様に夜間も詳しく個人個人の状態を記録している		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し満足度を高められるよう努力している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館や図書館等地域の資源を活用できるよう普段から連携をとるようにしている		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院や専門病院が近くにあり、緊急時や状態変化時には相談できる体制がある	以前のかかりつけ医を基本に地理的に難しい場合や家族等の希望があれば近隣の協力病院を紹介しているが、個々の体調や専門医が必要な場合、緊急時を含めてできるだけ本人、家族の希望を大切に対応している。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師不在時は介護職員との連携・対応している		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう話し合うようにしている	利用者が入院することになった場合、家族とも連絡をとりながら、情報提供やお見舞いなど可能な協働をされている。入退院時には、病院関係者と連絡を適切に取りながら、退院時期の相談や退院後の生活の注意事項等について連携をとりながら対応している。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応方針を定め、家族にも理解を得ている。家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払うようにしている	事業所では、終末期に向けた指針が作成されており、利用者にはその状況が近づいたときに話しをされている。管理者はじめ職員は、できる限り本人、家族の希望に沿うケアを続ける方針であるが、具体的な指針について職員全員の共有はまだされていない。	重度化や終末期に向けた事業所の方針は決められており、指針として文書化されているので、今後は、管理者はじめ全職員でその内容を理解し共有した上で、家族と関係者、職員と共に支援に取り組まれることを望みたい。
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを職員間で熟知し、日頃から訓練し、冷静に判断出来るよう努力している		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を実施(昼夜)日頃から危機管理を心がける。災害においては、自治会への働きかけにて避難・支援を受けられるよう取り組み実現に向かっていきます	年に2回の定期的避難訓練は実施されており、防災訓練では自治会の訓練に事業所から参加されている。地域の関係づくりも進み、お互いの協力体制も構築されつつあるが、地元消防団や隣近所の住民との協力体制は今後に期待したい。	実際の避難が必要になった場合に備えて、日頃の行事や運営推進会議等に、地元の消防団の方にも出席していただいて事業所の建物や入居者の様子を見ていただくなど今後の工夫を楽しみにしたい。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に丁寧な言葉遣いを徹底し、声かけには十分配慮するようにしプライバシーの確保に努めている	管理者は、毎月開催の会議や場面場面で職員に人権の尊重とプライバシーの確保についての重要性和日々の実行の大切さを言葉で伝えている。勉強会も実施されているが、今後は記録も残し全職員で共有できるようされることが望ましい。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも本人が決める場面をつくるようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、個々の体調を配慮し、その時の本人の気持ちを尊重し、柔軟に対応できるよう心がけている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事にはおしゃれを楽しんで頂ける様、よそ行きの服に着替えるなどの声かけ見守り介助を行っている		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き、メニューに取り入れれたり、食事の準備や配膳も一緒に行うようにしている。食事時は職員も一緒に食事をしている	利用者の好みや食べたいものを入れた献立を職員で作成しており、2日に1回は買い物に行き、毎日手づくりをしている。野菜切り、味付け、配膳、後片付けもなどできることは利用者さんと一緒に出来る範囲でされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・バイタル値・排泄チェック表などにて体調管理を行っています。個々の状態を見極め水分量の提供を行い、自力で自由に飲めるような配慮も行っています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にイソジン液をいれうがいを行っています夕食後には歯磨きや義歯洗浄を行い口腔衛生を保持している		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導し、トイレでの排泄を促している	個々の生活のリズムや排泄パターンを見ながら、トイレ誘導をおこなったり、紙パンツの交換をしている。要注意の利用者がおられる場合には、排泄チェック表を用いて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味のかたには朝食時にヨーグルトや牛乳を飲んで頂いている。散歩やフロアー運動も心がけています		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日の入浴を実施。個々の好みの時間帯・湯加減・所要時間など希望に添うように配慮しています	入浴は週に4回を基本に、体調を確認しながら個別に入浴の支援をされている。無理はせず、しかし清潔保持も考慮しながら現在は午後の時間を入浴の時間に行っているが、希望があれば、他の時間曜日でも対応できる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に個室なのでゆっくり、気兼ねなく、休みたい時に安心して休まれるよう支援しています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示を受け、薬の変更があれば、日誌にて申し送るようになっている。又服薬時には誤薬がないよう、名前・日付など必要事項を復唱し防止に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書は移動図書にて好きな本を選ばれ、卓球の上手なかたにはレク活動にて、将棋の得意な方は入居者同士で対戦できる支援を行っています		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の気分に応じて季節を肌で感じてもらえるよう、日常的な散歩、ドライブ等に出かけている	散歩のコースがあって、天候が悪くなければ、個別の対応でできるだけ散歩に出かけている。また、近所のお祭りに出かけたり、個々の利用者の希望によっても可能なかぎり対応している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族との相談の上お金を所持されている方はいる。実際は買い物などに出かけた時に支払いをしてもらう機会は少ない		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話で希望時家族や身内に連絡とれるようにしている		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けは季節感のあるものを利用者と一緒に作成している。また廊下には絵画や写真を飾っている	ユニットごとに、それぞれの利用者との合同での季節の作品がフロアや出入り口のところに飾られている。木がふんだんに使われた室内は落ち着いて、廊下のコーナーには椅子やテーブル、ベンチが置かれて、ひとりでも少人数でも過ごせる居心地のよい場所が配慮されている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には和室があり、居室前には椅子がある。また廊下にはソファを置き談話ができるスペースがある		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスなどなるべく使い慣れた物を持ってきて頂くよう家族様と相談し居心地の良い雰囲気作りに努める	居室は、畳の部屋で、敷物が敷かれてあったり、自宅から持ってこられた筆筒や小物が飾られて、居心地良く暮らせるように配慮されている。表には表札があり、自分の部屋を確認されていた。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で今までの生活歴を生かし出来る事をして頂ける空間作りを大切にしている		